

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型児童通所支援事業所 に・こ・ぼ			
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日		～	R7年 3月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		～	R7年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児が安心感を持って通所できている。 ・職員配置を手厚くし個別の対応が可能である。	・利用児が安心して過ごすことができるように、個別の対応や言葉かけには十分配慮してかかわっている。 ・個室の活用や、パーテーションを使いながら、お子さんの状況に応じて少人数で活動できる環境設定を行っている。	・これからも継続して支援の内容や方向性、課題についてスタッフ間で検討、共有しながら支援していく。 ・利用児の状態や変化に応じながら、目的をもって活動に参加することができるように環境設定に配慮していく。
2	・保護者からの相談などへの対応は電話連絡や面談の実施を通して適宜対応している。	・通所した日の様子や活動内容は、送迎時間や電話連絡を通して、具体的に保護者の方にお伝えするように意識して取り組んでいる。 ・連絡ノートには活動内容と今日の様子、個別療育の実施内容、保護者欄を設け、に・こ・ぼでのお子さんの様子を細かく伝えている。	・今後も継続して療育の内容や日々の様子をこまめに発信し、保護者と状況を共有していく。
3	・他事業所の見学や連携を通して、支援に偏りが生じないように配慮している。	・他事業所の見学や連携を通して、支援の内容を振り返ったり、幅をもつことに努めている。	・事業所内、外の研修に留まらず課題に沿った学びを求めることで、他事業所との合同研修会など積極的に実施する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流を持つ機会や家族への勉強会等の機会が少ないこと。	・保護者同士でのかかわりを増やす機会を年間で組むことができなかった。	・保護者同士がかかわりを持つ場の提供や保護者向けの勉強会等の内容について検討し、年間で計画を立てていくことが必要。
2	・幼稚園、保育園、地域の子どもたちとのかかわる機会を持つことが少ないこと。	・活動内容に地域の子どもたちと活動する機会を組むことができなかった。	・近隣の保育園や児童館などに出向いて、地域の子どもたちとかわる機会を活動内容で組んでいく。
3	・、ホームページやSNSなどを活用し、お子さんの取り組み様子などを定期的に発信する機会は少なかった。	・毎月お便りとして、避難訓練を含む行事内容の発信はお便りとして手渡していたが、ホームページやSNSの活用頻度が少なく、定期的な発信ができなかった。	・SNSで毎月定期的に情報発信をおこない、保護者の方によりわかりやすく活動内容をお伝えできる工夫をしていく。